

令和6年度第2回防災プロジェクト会議

日 時	令和7年2月13日(木) 午後2:00~午後4:00
場 所	アミューあつぎ6階 605
出席者	民生委員・児童委員、防災関係者、厚木市社会福祉協議会、 厚木市障害者福祉事業所連絡会 みんなのみらい (特非) ゆうかり 障害者地域活動支援センターレザミ工芸 (社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム、 (社福) 野百合会 相談支援事業所 まゆみ 厚木市障がい福祉課、厚木市障がい者基幹相談支援センター <p style="text-align: right;">(敬称略)</p>

令和6年度第2回防災プロジェクト会議

1. 開会

総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター

・資料確認（次第、名簿、事業計画、神奈川工科大学の共催研修の予定、地域にお住まいの方々のつながりについて）

・出欠確認

議事進行 （社福）すぎな会 すぎな会生活ホーム、

2. 議題

(1) 本年度の振り返りについて

1回目の防災プロジェクト会議で話し合われた内容を振り返る。

- ① 厚木市の地域防災訓練の現状について厚木市危機管理課から
厚木市の地域防災訓練は、自治会単位で行っている。9月1日の防災の日の訓練は、今年
は台風の影響で中止になった。既に終わった自治会とこれから行われる自治会がある。各
自治会で行われる防災訓練については、危機管理課の方に計画を提出して頂き、行った後
も報告を頂くことになっている。また、石川県の能登半島地震にも協力隊として赴いたと
お話を頂いた。
- ② 令和6年6月4日の厚木市社会福祉協議会、会長の話も報告させて頂いた。会長からは、
地域の方と障がいのある方が繋がった方が良いが、どうやって繋がったら良いか双方で悩
んでいる。避難行動要支援者名簿の中に個別支援計画というのがあるが、それがまだマニ
ュアル化されておらず、十分とは言えない。今後、システム化やマニュアル化していける
と災害時にもっと役立つと思う。被災された経験から、自分を守るのは自分だけである。
日頃から、意識して防災について考えて行かないといざという時に、行動できないとお話
頂いた。
- ③ 令和6年7月24日に、相談支援プロジェクトと合同で、災害ボランティアネットワークよ
り災害に備えて、日々持ち歩いている物や災害時のトイレ事情や災害食、衛生面での話や
指定避難所での体験談について教えて頂いた。もう一つは、都市計画課からあつぎ3Dマ
ップの使い方についてご講義頂いた事を報告した。
- ④ 令和6年7月11日に、神奈川工科大学共催による研修会を実施した。出席者は、23名で
ある。神奈川工科大学内外を見学することができた。神奈川工科大学で新たに建設された
KAITTOWNの会議室において、実際に防災対策チェックリストの作成を行ったことを報告し
た。
- ⑤ 防災対策チェックリストの改訂版の完成に向けての検討を行った。
以上5点について、1回目のプロジェクト会議で振り返りをしているが、前回欠席だった方
にご意見を頂いた。

意見交換

・令和6年7月24日の相談支援プロジェクトの合同研修会に参加させてもらった。参考になる
部分が多かった。実際、災害食を試食した事が新鮮で、おいしかった。自法人にその情報を
持ち帰って、法人での災害時の荷物の準備のところで、研修で得た情報を提供させてもら
った。

((社福) 野百合会 相談支援事業所 まゆみ)

(2) 次年度の取り組みについて

○防災対策チェックリストの改訂版の周知について

- ・普及啓発を進めて行きたい。今までの配布場所は、障がい福祉課の配架で20部配布済み。改訂した防災対策チェックリストの周知メールを165事業所に送付。(12月上旬あつまるの会議で10事業所にチラシ配布。地区地域福祉推進委員会に(自治会長、民生委員)40部チェックリストとチラシを配布。庁内連携を進めていて7月に地区防災隊に関する職員研修の際、防災対策チェックリストの携帯版、チラシを130部配布した。

意見交換

- ・9月1日の防災訓練は、雨のため中止になった。各单位自治会でやりなさいと危機管理課から言われたが、防災訓練を行った自治会は、214自治会のうち23~24の自治会だった。能登半島、南海トラフ、8月9日震度5弱の地震(厚木市)、9月の能登半島の豪雨とかある中、自主的に行ったのが少なかった。検証フォローがあるのか。防災意識の理解が薄い。行政のトップに立つ人たちの危機意識が薄いのではないかと。能登半島の地震では、半分以上の方が、支援が行き届かなくて亡くなった。日頃からの地域の繋がりが大事である。

(防災関係者)

○来年度どんどころに防災対策チェックリストを周知していけば良いか。自治会や民生委員への周知は、どういうふうに行えば良いか。

- ・今月20日に、自治会の理事会があるのそこで情報提供できると良い。

(防災関係者)

- ・令和6年度防災訓練は、10月20日に、上依知小学校のある上中下町自治会3つで行った。390名参加。直下型地震と風水害を想定で、避難訓練を行った。テント設営、地震体験車による訓練、スモークマシンによる煙体験を行った。障がい者にも声をかけたが、歩けない子が多い。8名中4名は、車でいける。(うち単身者5名)社会福祉協議会と相談しながら、民生委員にも周知していく方法を考えたい。

(民生委員・児童委員)

- ・公民館には、配下されているのか、チラシを1枚貼っておくだけでも良い。
⇒公民館には、置いていない。いろいろな地区の情報やイベントがあり、難しい可能性が高いがご意見として伺う。

(厚木市障がい福祉課)

○防災対策チェックリストを施設で行った際の年に1回の更新はしているのか。

- ・レザミ工芸は、今回の改訂版にあわせて、書き直しをしてもらった。携帯版は、チェックをして本人に渡す。

((特非) ゆうかり 障害者地域活動支援センターレザミ工芸)

- ・なかなか、更新の機会が出来ていない。

((社福) 野百合会 相談支援事業所 まゆみ)

⇒ このプロジェクトで気づいて頂き、事業所で広めてもらいたい。

○神奈川工科大学共催による研修会の実施について

資料参照：神奈川工科大学での防災対策チェックリスト作成研修

令和6年7月11日に、神奈川工科大学で防災対策チェックリストの作成研修を行った。その時の対象者が、在宅の身体、知的、精神である。

令和6年度第2回防災プロジェクト会議

令和4年度は、神奈川工科大学の校舎内外を見学し、地域連携災害ケア研究センターの特任教授及び健康医療科学部看護学科の先生から講義を受け、防災対策チェックリストを記入した。令和5年度は、雨だったため、神奈川工科大学の校舎内のみを見学し、防災対策チェックリストを記入した。

令和6年度も同じく、神奈川工科大学校舎内のみを見学し、防災対策チェックリストを記入した。メンバーは、地域生活サポート事業補助金の防災関係申請をしている事業所から当事者を募集した。

令和4年度、5年度は、11月に研修を開催したが、令和6年度は、9月の防災訓練の前に、研修を実施しようということになり、7月に実施した。

令和7年度も7月に実施を予定している。対象の事業所は、就労継続支援B型の事業所で今まで参加経験のない事業所、共同生活援助の新規の事業所を考えている。

(障がい福祉課)

意見交換

・鳶尾4丁目にあるグループホームがある。新築をされて、十数名入居者がいる。社長は、地元の方である。グループホームをやりたいと、たまたま空き家の一軒家を借りた。社長を呼んで、定例会の役員会に何回か出てもらって、了解は取ったが、隣家の人が、毛嫌いをした。防犯カメラつけたり、照明を入れたり「刺されたり、刑事事件になったりしたら、責任が取れるのか」と言われた。そういうふうに言われると、共生社会を考えている中で、いたたまれない感じであった。今までは、一緒に野球をしたり、その方に救急車が来れば飛んでいったりという仲であったが、グループホームができるとなると受け入れられないという問題が、町内である。隣りの方は、私にも挨拶をしない。グループホームには、是非、研修に出て頂きたい。

(防災関係者)

・すぎな会も何があったかわからないが、大家と上手くいかず、年末年始の挨拶も品物は、受け取らない。地域といっても、みんなが受け入れるわけでもなく、難しい。

((社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム)

・自分だって明日に、障がい者になるかもしれない。障がい者にならない保証はない。自分を相手の立場に置き換えられる様にならないといけない。

(防災関係者)

・利用者が挨拶をすると近所も変わってきて、今は割と「そこいらへんの人たちよりもグループホームの人たちの方が挨拶してくれるよ。」と近所の人が言ってくれる。職員も利用者に、「挨拶をしようね。」とずっと言い続けている。

((社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム)

・やはり繋がり必要である。

(防災関係者)

・利用者に新しい方がいたら、一度参加されていても、神奈川工科大学の研修に参加できるが、レザミ工芸は、どうか。

((社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム)

・新規の利用者は、情報の伝え方に課題があり、参加を進めても積極的にはならない。

((特非) ゆうかり 障害者地域活動支援センターレザミ工芸)

・ご希望があれば、委員の方ももう一度参加できる。

(障がい福祉課)

令和6年度第2回防災プロジェクト会議

○障がい者が地域と繋がり、地域の防災訓練に参加しやすくなるための取り組みについて

資料参照：【地域にお住まいの方々のつながりについて】

社会福祉協議会主催の地域防災に関するコミュニティの仕組みづくりについての研修会に出席した。講師は釜石市の職員の方だった。3.11などの話を聞いた。社会福祉協議会の会長と同じように、防災訓練をしたことが、実際の災害の時にでる。逆に間違った訓練をして、間違った方に逃げて、命を落とした人もいる。日々、防災や訓練を意識して、正しい訓練をすることが大事だと聞いた。

防災に関しては、自助、共助、公助と3種類ある。

自助については、今までやってきた防災対策チェックリストである。普及は、令和4年から始まった。神奈川工科大学の協力を得て、普及活動をしている。今後も対象事業所を替えて、続けて行きたいと思っている。

公助の部分であるが、厚木市の職員が、厚木市22万人の市民の方々を救うことは、不可能に近い。公助は、あまり期待できないと思い、共助の取り組みを考えた。

平時から、地域での繋がりを考えて、地域で暮らす障がい者と自治会、民生委員等地域で住む人とのパイプ役をこのプロジェクトで考えていけたらと思っている。対象者は、市内に住む在宅の障がい者である。双方を繋ぐことを考える。

ステップ1

地域の方でも障がい者でも対象者から声をかけてもらう。例えば、当事者から、「地域と繋がりたいけれど助けが必要だ」と支援者に声がかかる。

ステップ2

双方で話し合いが持てるかどうかのセッティングしていく。

ステップ3

双方で良いとなったら、合う日程調整を考えて、今後の支援とか地域の資源を利用しながら、どういうふうにしようか考えていく。

ステップ4

防災訓練に参加。

ステップ5

振り返りをして今後に生かす。

(障がい福祉課)

意見交換

- ・避難所運営委員会のしおりを対象者に渡すと役に立つが、自治会に入っていないと渡せない。
- ・自治会に入会していない方については、自治会のメリットをアピールできる場になる可能性もある。
- ・8年ぐらい前に、厚木市鳶尾4丁目地区がモデル地区になり、避難訓練を行った。その時に1年位研修を受けた。荻野中学校が避難所の場所となり、4,500人集まった。模擬訓練をしたので、町内も危機意識が芽生えてきた。人の繋がりが大事と認識してきた。

(防災関係者)

→来年度は、地域活動支援センターで行っているネットワーク会議に出ている自治会、民生委員の協力を得て、障がい者と地域が繋がる取り組みをしたいと思っている。

(障がい福祉課)

- ・民生委員は、障がいとあまり、関わりがない。障がいと関わりたい人も入れば、関わりたくな

令和6年度第2回防災プロジェクト会議

い人もいる。

(社会福祉協議会)

→障がい者と関わりを持ちたいなと思う人と進めていきたい。

議事進行 (社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム、⇒
総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター

3. 閉会

以 上